

# 公衆衛生学 コース

公衆衛生学的アプローチにより少子高齢社会における複雑化する健康医療問題に対処し解決する能力を涵養し、公衆衛生、医学倫理、医学統計の実務家や研究者を育成します。

世界規模で少子高齢化が進み、健康や医療の問題が複雑化している現在、医学・医科学のみならず人間社会の枠組みを律する人文社会科学系の知識・技能を習得し、健康医療の諸問題に対処して解決する能力が求められています。公衆衛生学コースは、「公衆衛生学プログラム」、「医学倫理・研究ガバナンスプログラム」、「医学統計プログラム」から成り、所属研究室での研究活動と並行して、世界基準を満たした疫学、医学統計、医学倫理、社会学・行動科学、保健医療政策学、環境保健学、グローバルヘルスの講義、演習やフィールド実習を通じて、公衆衛生学と関連諸分野の基本と応用を学びます。

本コースは、文理融合教育を通じて、論理性、専門性、応用力、社会性、リーダーシップを兼ね備え、わが国の少子超高齢化に伴って複雑化する健康医療問題やグローバルヘルスに対処できる公衆衛生、医学倫理、医学統計の実務家や研究者を育成します。

社会人学生でも履修しやすいように、必修科目の医学概論講義を2年に分けて履修可能とし、公衆衛生学、関連諸分野の科目を土曜日（一部、夏期集中と平日の夕方以降）に開講します。卒業時には修士（公衆衛生学）、MPH（Master of Public Health）が取得できます。

本コース終了後の進路は約半数が博士課程への進学、半数は行政機関、企業への就職です。

公衆衛生学コースに主な関連する教室（令和5年4月～）

【公衆衛生学プログラム】公衆衛生学、環境医学

【医学倫理・研究ガバナンスプログラム】医の倫理と公共政策学

【医学統計プログラム】医学統計学

上記教室の詳細は、医学系研究科ウェブサイト「講座一覧」をご覧ください。

<https://www.med.osaka-u.ac.jp/introduction/research>